

V 住宅用火災警報器


1 住宅火災における設置状況と死者・焼損程度


住宅用火災警報器の設置率は全国的に年々増加し、下関市においても設置率8割以上となっています。死者の割合を比較すると未設置住宅では設置住宅の2倍の死者が出ています。焼損の程度は、設置の半数以上がぼやでおさまっています。

年	火災 件数	住警器の 設置状況		死者		焼損の程度								
		設置 46%	未設置 54%	設置 33%	未設置 67%	設置				未設置				
						全焼 13%	半焼 9%	部分焼 26%	ぼや 52%	全焼 49%	半焼 11%	部分焼 14%	ぼや 25%	
合計	213	97	116	27	9	18	13	9	25	50	57	13	16	29
2023	24	8	16	8	0	8	0	1	1	6	12	1	2	1
2022	28	11	17	2	1	1	1	2	5	3	5	1	2	8
2021	21	10	11	2	2	0	1	1	3	5	7	2	0	2
2020	18	8	10	3	1	2	2	0	3	3	7	0	2	1
2019	13	8	5	2	2	0	1	1	1	5	2	3	0	0
2018	25	11	14	2	0	2	2	0	2	7	6	1	3	4
2017	21	14	7	0	0	0	1	1	6	6	4	0	2	1
2016	21	10	11	4	2	2	1	1	1	7	3	4	1	3
2015	20	8	12	3	0	3	2	1	0	5	5	0	3	4
2014	22	9	13	1	1	0	2	1	3	3	6	1	1	5


※死者～放火自殺者を除く

2 設置・維持・管理





住宅用火災警報器は作動しますか？




住宅用火災警報器の設置が義務づけられ、既に10年以上が経過しています。


現在販売されている警報器の電池寿命は、最長でも約10年であることから、既に電池容量不足や電池切れとなっていることが考えられます。

また、各メーカーによると、警報器本体の寿命も約10年であり、本体の交換を推奨しています。

住宅用火災警報器が正常に作動するよう定期的に点検を行い、ご家庭での安全安心な環境づくりに努めましょう。

10年経ったら交換しましょう





点検要領

- ★定期的に作動点検をする。
 - ⇒ ボタンを押す・ひもを引く。
 - ⇒ 鳴ればOK!
 - ⇒ 鳴らなければ電池切れや故障が考えられます。
- ★ホコリが付いていれば取り除く。